

<p>主 題</p>	<p>自転車に乗るときの基本的な心得～自転車事故の怖さを知ろう</p>	
<p>ねらい</p>	<p>交通事故の危険性や怖さ、交通ルール等を守ることの大切さを知り、交通社会人としての自覚と責任を持って、安全な自転車利用ができるようにさせる。</p>	
<p>評 価</p>	<p>①交通事故の危険性や怖さを知り、交通ルール等を守ることの大切さが理解できたか。 ②交通社会人としての自覚と責任を持って、安全な自転車乗用を实践しようとする心構えができたか。</p>	
<p>学習項目</p>	<p>指導内容</p>	<p>指導上の留意点</p>
<p>1. 交通場面に潜む危険の予測と回避の仕方</p> <p>2. 交通社会人としての自覚と責任</p> <p>3. まとめ</p>	<p>交通場面を見て、どのような危険が予測され、その危険の原因と回避の仕方を班別に考え、ワークシートにまとめさせる。</p> <p>●資料1（交通場面）</p> <p>○信号機のない交差点の右折 〈危険予測学習〉</p> <p>①予測される危険を考える ②予測される危険原因を考える ③予測される危険の回避方法を考える</p> <p>話し合った結果を各班の代表者に発表させ、質疑応答を通じて、危険を予測して正しい、安全な自転車乗用に努めることの大切さを理解させる。</p> <p>〈危険の原因〉</p> <p>①自転車の一時不停止や安全不確認 ②自転車のスピードの出し過ぎや急な進路変更</p> <p>●資料2（予測される危険）</p> <p>①後ろからくる車と衝突 ②左からくる歩行者と衝突</p> <p>●資料3（危険回避の仕方） 信号機のない交差点の正しい右折の仕方</p> <p>交通社会人（道路を利用する歩行者や運転者）としての自覚と責任の重要性について考えを深めさせる。</p> <p>●資料5（交通社会人としての自覚と責任）</p> <p>①加害者になった場合の責任と補償 ②事故を起こした場合の対応の仕方</p> <p>交通社会人としての自覚を持って交通ルール等を守り、交通事故に遭わないように安全な自転車乗用に努めさせる。</p> <p>●確認クイズ</p>	<p>○生徒を班別に分け、プリントしたワークシートを配る。</p> <p>○多様な意見が活発に出し合える雰囲気大切にさせる。</p> <p>○全体会で発表できるよう班別にまとめさせる。</p> <p>○場合によっては、危険予測学習の①～③についてその都度発表させるなど、学習の仕方を工夫する。</p> <p>○車からの視点を示し、危険の原因を考えさせる。</p> <p>○自転車乗用者の焦りや急ぎなど心理的な原因にも気付かせる。</p> <p>○事故の怖さに気付かせるとともに、特に交差点での危険性が高く、注意が必要なことを理解させる。</p> <p>○自転車の特性（すぐに止まれない、車の運転者から発見されにくい、倒れやすい）についても触れる。</p> <p>○車の特性（死角、内輪差）についても触れる。</p> <p>●資料4（死角、内輪差）</p> <p>○自転車は車両の一種であり、交通ルールを守ることが必要であることを理解させる。</p> <p>○迷惑な自転車駐車についても触れ、正しい駐車を心がけさせる。</p> <p>○歩行者等いわゆる交通弱者（子ども、障害者、高齢者）への配慮についても理解させる。</p> <p>○交通事故の被害者や加害者の手記等を通して、事故の悲惨さに気付かせる。</p> <p>○クイズ形式の確認テストを実施して、学習した内容を確認させる。</p>

中学生－1（自転車に乗るときの基本的な心得）

●資料1（交通場面）

信号機のない交差点の右折



自転車が、信号機のない交差点を右折しようとしています。
この交通場面から、どのような危険が予測されるでしょうか？
みんなで考えてみましょう。

●資料2（予測される危険）

①後ろからくる車と衝突



②左からくる歩行者と衝突



①安全確認をしないまま右折しようとして右に進路を変えたときに、後ろから走ってくる車と衝突する危険があります。他に前から走ってくる車と衝突するなどの危険が考えられます。
②安全を確認しないまま交差点に入ったときに、左からくる歩行者と衝突する危険があります。他に右から走ってくる車と衝突するなどの危険も考えられます。

●資料3（危険回避の仕方）

信号機のない交差点の正しい右折の仕方

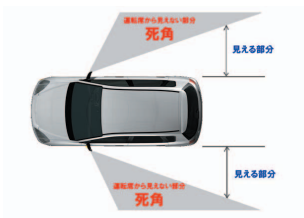


このような交差点を右折するときは、停止線で一時停止し、前後左右の安全を確かめ、できるだけ道路の左端に寄って交差点の向こう側までまっすぐに進み、十分にスピードを落として曲がりましょう。

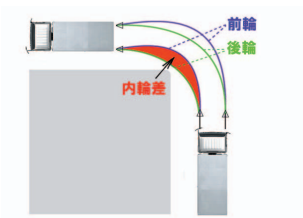
一時停止の標識・標示がなくても、狭い道路から広い道路に出る場合や見通しの悪い曲がり角では一時停止をして、安全を確認してから通行するようにしましょう。

●資料4（死角、内輪差）

死角



内輪差



車には運転者から見えない部分いわゆる死角があります。特にミラーによる死角に入ってしまうと、こちらからは運転者の顔が見えていても気付かれていない場合があります危険です。常に車の死角に入らないように注意しましょう。

車には曲がるときに後輪が前輪よりも内側を通るいわゆる内輪差という特性があります。この内輪差は大型の車ほど大きくなります。特に交差点では後方からの左折車に十分注意しましょう。

●資料5 (交通社会人としての自覚と責任)

①加害者になった場合の責任と補償



自転車は事故を起こしても大したことはないと思いませんか？

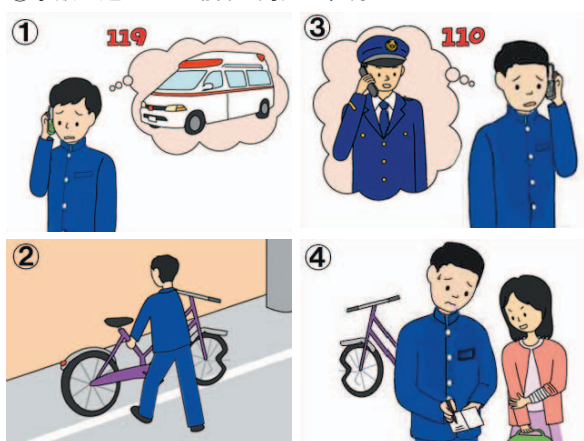
自転車は、道路交通法では、車の一種です。

交通ルールを守らないで交通事故を起こすと、刑事責任として刑罰が科せられ、民事責任として被害者に与えた損害を賠償しなければならない場合があります。

自転車の加害事故では、6,000万円を超える損害賠償の事例があります。

自転車で事故を起こした場合の責任の重さをよく理解し、交通ルールを守って安全な乗り方に努めるようにしましょう。

②事故を起こした場合の対応の仕方



もしも事故を起こしてしまったら、落ち着いて次の行動をとるようにしましょう。

①けが人がいる場合は、まず救急車を呼びましょう。

②二次災害を防止するため、歩道など安全な場所に自転車等を移動させましょう。

③現場をよく確認し、けが人の人数やけがの程度などを警察へ通報しましょう。

④事故の相手の名前、住所、連絡先などを確認しておきましょう。

MEMO

主 題	自転車に乗るときの注意～基本的な注意を確認してみよう
ねらい	自転車に乗るときに守るべきいろいろな注意事項を再確認し、安全な自転車利用をしようとする意識を高め、実践できるようにさせる。
評 価	①安全に乗るために必要な注意事項と正しい点検・整備の仕方が理解できたか。 ②安全に乗るための諸注意の大切さを再確認し、日常の自転車利用において実践しようとする心構えができたか。

学習項目	指導内容	指導上の留意点
1. 登下校時に潜む危険の読み取り	登下校時の交通場面を見て、どのような危険が予測されるかを読み取り、発表させる。 ●資料1（登下校時の交通場面） ①傘さし運転 ②ライトが故障している自転車を運転 ③不適切な荷物の積み方で運転 ●資料2（予測される危険）	○多様な意見が活発に出し合える雰囲気大切にさせる。 ○各場面における自転車乗用者の焦りや急ぎなど心理的な要因についても考えさせるようにする。
2. 危険の原因と回避の仕方	予測される危険の原因と危険回避の仕方について考え、発表させる。 〈危険の原因〉 ①傘さしによる視界不良 ②無灯火による車からの発見の遅れ ③荷物のはみ出し ●資料3（危険回避の仕方）	○乗車用ヘルメットの着用についても触れる。
3. 自転車の正しい点検・整備の仕方	自転車の点検・整備の重要性について考えさせるとともに、自転車の正しい点検の仕方を理解させる。 ●資料4（自転車に乗る前の点検の仕方） ①ブレーキ ②ベル・ブザー ③ライト ④タイヤ ⑤ハンドル ⑥反射器材・尾灯	○特にブレーキが故障、反射器材や尾灯が付いていない自転車には乗らないことを強調する。 ○TSマーク、JISマーク、BAAマークなどについて説明する。 ○定期的（最低1年に1回）な自転車安全整備店などでの点検・整備の大切さにも触れる。
4. まとめ	自転車に乗るときの基本的な注意事項を再度確認し、日常の自転車利用に役立たせる。 ●確認クイズ	○クイズ形式の確認テストを実施して、学習した内容を確認させる。

【補足資料】（TSマーク、JISマーク、BAAマーク）



自転車安全整備士が点検・整備を行い、点検整備基準に適合した普通自転車には、点検整備済TS（Traffic Safety）マークが貼られます。この点検整備済TSマークには傷害保険や賠償責任保険が付いています。
また、日本工業規格に適合した自転車にはJIS（Japanese Industrial Standard）マーク、自転車安全基準に適合した自転車にはBAA（Bicycle Association Approved）マークが貼られています。
安全に、そして安心して自転車に乗るためにも、これらのマークの付いた自転車を利用するようにしましょう。

中学生－2（自転車に乗るときの注意）

●資料1（登下校時の交通場面）

交通場面全体

みなさんと同じ中学生の登校と下校の様子です。この交通場面から、どのような危険が予測されるでしょうか？

①傘さし運転



②ライトが故障している自転車を運転



③不適切な荷物の積み方で運転



●資料2（予測される危険）

①後ろからくる車と衝突



傘さし運転のため後ろの安全確認ができないまま、進路を変更すると、後ろから走ってくる車と衝突する危険があります。他に片手運転のためふらついて転倒する危険が考えられます。

②わき道から出てきた車と衝突



ライトが故障しているので無灯火運転となり、相手に自分の存在が分からないため、わき道から出てくる車と衝突する危険があります。他に前を歩いている歩行者に気付かないで衝突する危険などが考えられます。

③前からくる歩行者と荷物が接触



荷物が自転車からはみ出しているため、前から歩いてくる歩行者と接触する危険があります。他にハンドル操作が不安定となり転倒する危険などが考えられます。

●資料3（危険回避の仕方）

①レインコートを着て運転



②乗る前に安全点検の実施



③荷物を適切に積んで運転



- ①傘をさしたり、自転車に固定したりして運転するのは、視野が妨げられたり、不安定な運転になったりして危険です。雨の日は、車の運転者から見られやすいように明るい目立つ色のレインコートを着て、普段よりスピードを落として乗るようにしましょう。
- ②夜間の無灯火は交通ルール違反であり、非常に危険です。自転車に乗る前には、ブレーキやライトなどが故障していないか、しっかり点検して、故障している自転車には乗らないようにしましょう。
- ③荷物を積むときは、前が見えなくなったり、自転車の安定が悪くなったりしないように、かごや荷台に適切に積むようにしましょう。

●資料4（自転車に乗る前の点検の仕方）

自転車に乗る前の点検の仕方



自転車の安全な乗り方の第一歩は、自転車に乗る前の点検です。点検の仕方をしっかりと覚えましょう。

- ①ブレーキが前後ともよくきくか確認します。
- ②ベルやブザーがよく鳴るか確認します
- ③ライトは明るく点灯するか確認します。
- ④タイヤの空気は十分か、すり減っていないか確認します。
- ⑤ハンドルが曲がっていないか確認します。
- ⑥反射器材や尾灯が後方や側方からよく見えるか確認します。

自転車点検表

点検箇所	点検のポイント	月/日	月/日	月/日	月/日
1	ブレーキ ブレーキが前後ともよくきくか確認します。				
2	ベル・ブザー ベルやブザーがよく鳴るか確認します。				
3	ライト ライトは明るく点灯するか確認します。				
4	タイヤ タイヤの空気は十分か、すり減っていないか確認します。				
5	ハンドル ハンドルが曲がっていないか確認します。				
6	反射器材・尾灯 反射器材や尾灯が後方や側方からよく見えるか確認します。				

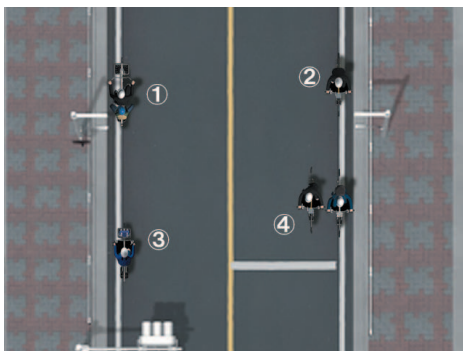
主 題	自転車の安全な乗り方～自分の乗り方が危険でないか振り返ってみよう	
ねらい	自転車の危険な乗り方による危険性を理解し、安全な自転車利用ができるようにさせる。	
評 価	①自転車の危険な乗り方をした場合の具体的な危険性に気づき、安全な乗り方が理解できたか。 ②安全な乗り方の大切さを知り、日常の自転車利用において実践しようとする心構えができたか。	
学習項目	指導内容	指導上の留意点
1. 自転車の危険な乗り方	自転車による交通場面を見て、危険な乗り方を見つけ出し、どのような危険が予測されるかを考え、発表させる。 ●資料1（危険場面） ①二人乗り ②並進 ●資料2（予測される危険）	○なぜ、このような乗り方をしてしまうのか、普段の自分たちの行動と照らし合わせて考えさせる。
2. 危険の原因と危険回避の仕方	予測される危険の原因と危険回避の仕方について考え、発表させる。 〈危険の原因〉 ①バランスを崩す・ハンドル操作が不安定 ②友だちとの会話に夢中 ③周囲の安全確認がおろそかになる。 ●資料3（危険回避の仕方）	○車からの視点を示し、危険の原因を考えさせる。 ○二人乗りは、一人で乗っている場合と比べて止まる距離が延びることに触れる。 ○並進による、車や歩行者などへの迷惑に気付かせる。
3. 自転車の安全な乗り方	危険な乗り方の交通場面を見て、それぞれどのような危険があるのかを考えさせ、安全な乗り方について理解させる。 ●資料4（危険な乗り方） ①乗用中の携帯電話使用 ②乗用中のヘッドホン使用 ③競走・ジグザグ運転 ④車と車の間に割り込み ⑤夜間の無灯火運転 ⑥傘さし運転 ⑦踏切での一時不停止 ⑧物を持ちたりハンドルにかけたりしての運転 ⑨ブレーキやライトが故障した自転車を運転 ●資料5（安全な乗り方）	○合図をする場合は、自動車の運転者から分かるように合図を行い、合図をする場合の他は片手運転をしないことにも触れる。
4. まとめ	普段の自分の乗り方を振り返りながら、安全な乗り方を理解し、日常の安全な自転車利用に役立てるように努めさせる。 ●確認クイズ	○点検・整備の大切さにも触れる。 ○クイズ形式の確認テストを実施して、学習した内容を確認させる。

中学生－3（自転車の安全な乗り方）

●資料1（危険場面）

みなさんと同じ中学生の自転車に乗っている様子です。この交通場面から、どのような危険が予測されるでしょうか？
みんなで考えてみましょう。

交通場面



①二人乗り



②並進



●資料2（予測される危険）

①後ろからくる車とぶつかる（二人乗り）



二人乗りのため、バランスを崩してふらつき、後ろから走ってくる車と衝突する危険があります。他にハンドル操作が不安定になって転倒する危険などが考えられます。

②後ろからくる車と衝突（並進）



並んで走りながら友だちとの会話に夢中で、周囲の安全確認がおろそかになり後ろからくる車に気付かず衝突する危険があります。他に2台が接触して転倒する危険などが考えられます。

●資料3（危険回避の仕方）

一列になって道路の左端を通る



二人乗りはバランスを崩しやすく、ハンドル操作が不安定になります。危険なのでやめましょう。並んで走るのは道路をふさぐことになり、車や歩行者に大変迷惑で危険を及ぼすことになります。車道を通るときは、道路の左端に沿って、一列で走行するようにしましょう。

●資料4（危険な乗り方）

次の自転車の危険な乗り方をしている場面を見て、なぜ危険なのか、どうすれば安全なのかについて考えてみましょう。

①乗用中の携帯電話使用



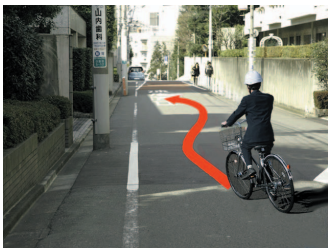
携帯電話を使用しながら乗ると、片手運転になりハンドル操作が不安定になったり、周囲への注意が散漫になったりするため、歩行者や車に危険と迷惑を及ぼすので、やめましょう。

②乗用中のヘッドホン使用



ヘッドホンを使用しながら乗ると、周囲の音が聞き取りにくくなり、危険に気付くのが遅くなったり対応が遅れたりして危険なので、やめましょう。

③競走・ジグザグ運転



競走やジグザグ運転は、車や歩行者へ迷惑と危険を及ぼすとともに、周囲への注意がおろそかになり危険なので、やめましょう。

④車と車の間に割り込み



車のすぐ後ろに続いて走ったり、車と車の間に割り込んだりするのは、車と衝突する危険があるので、やめましょう。車道を通行するときは、車道の左端を通行するようにしましょう。

⑤夜間の無灯火運転



夜間、ライトをつけないで走行するのは、車の運転者から見落とされやすく非常に危険です。前方の安全確認だけでなく、車や歩行者に自転車の存在を知らせるためにも、夜間は必ずライトをつけて走行しましょう。

●資料5（安全な乗り方）

車道の左端を通行



ライトをつけて運転



⑥傘さし運転



傘さし運転は、片手運転になる上に、視界が妨げられて危険です。車の運転者から見られやすくするために、できるだけ明るい目立つ色のレインコートを着るようにしましょう。

レインコートを着て運転



⑦踏切での一時不停止



踏切を安全確認しないで渡るのは、電車や列車と事故になる危険があります。踏切では、一時停止をして安全を確認し、自転車を押して渡るようにしましょう。

踏切手前での一時停止・安全確認



⑧物を持ったりハンドルにかけたりしての運転



物を持ったり、ハンドルにかけたりして乗るのは、片手運転や不安定な運転になりやすく危険です。荷物はかごや荷台に適切に積むようにしましょう。

荷物を適切に積んで運転



⑨ブレーキやライトが故障した自転車を運転



ブレーキやライトが故障したまま自転車に乗るのは大変危険です。また、路面凍結、風雨が強いときはバランスをとることが困難になります。
このようなときは、自転車を押して歩きましょう。

自転車から降りて押して歩く



主 題	自転車の通行場所と正しい通行方法～自転車の正しい通行を心がけよう	
ねらい	自転車も車両であり、決められた通行場所と通行方法を守らなければならないことを理解し、安全な自転車利用ができるようにさせる。	
評 価	①自転車に乗るときの通行場所と正しい通行方法が理解できたか。 ②自転車も車両であることを理解し、守るべき交通ルールを日常の自転車利用において実践しようとする心構えができたか。	
学習項目	指導内容	指導上の留意点
<p>1. 止まっている車のそばを通行するときの正しい通行の仕方</p> <p>2. 危険の原因と危険回避の仕方</p> <p>3. 自転車の通行場所と正しい通行方法</p> <p>4. まとめ</p>	<p>自転車で車道を通行している場面を見て、どのような危険が予測されるかを考え、発表させる。</p> <p>●資料1（車道での交通場面） ○駐停車車両の側方通行 ●資料2（予測される危険）</p> <p>予測される危険の原因と危険回避の仕方について考え、発表させる。 〈危険の原因〉 ①自転車の急な進路変更やスピードの出し過ぎ ②自転車の安全不確認</p> <p>●資料3（危険回避の仕方）</p> <p>自転車の通行場所と正しい通行方法を理解させる。 ●資料4（車道の通行） ●資料5（歩道の通行） ●資料6（信号機のある交差点の通行） ●資料7（信号機のない交差点の通行） ●資料8（道路の横断）</p> <p>●資料9（自転車の合図の仕方）</p> <p>自転車の通行場所と正しい通行方法を改めて確認し、日常の安全な自転車利用に役立てるように努めさせる。</p> <p>●確認クイズ</p>	<p>○普段、自分たちならどのように通行しているかを発表させ、自分たちの行為の危険性を理解させる。</p> <p>○車と歩行者からの視点を示し、危険の原因を考えさせる。</p> <p>○危険を予測した行動の大切さに気付かせる。</p> <p>○乗客の乗降で停止中のバスに近づいたときは、道路の左端に止まって待つようにすることにも触れる。</p> <p>○歩道通行ができる場合であっても、速いスピードで走るときは、車道を通行するようにさせる。</p> <p>○交差点では車の運転者が自分の存在を認識しているか確認すること（アイ・コンタクト）が大切であることを理解させる。</p> <p>○飛び出しの危険と安全確認の大切さを理解させる。</p> <p>○合図の仕方を理解させる。</p> <p>○クイズ形式の確認テストを実施して、学習した内容を確認させる。</p>

中学生－4（自転車の通行場所と正しい通行方法）

●資料1（車道での交通場面）

道路に車が止まっています。車の左側には自転車が通れるスペースがないので、車の右側を通行しようとしています。この交通場面から、どのような危険が予測されるでしょうか？ みんなで考えてみましょう。

駐停車車両の側方通行



●資料2（予測される危険）

①後ろからくる車と衝突



②車のかげから飛び出してきた歩行者と衝突



- ①後方の安全を確認しないで道路の中央に出ると、後ろから走ってくる車と衝突する危険があります。他に前から走ってくる車と衝突する危険などが考えられます。
- ②不用意に止まっている車の横を通ると、車のかげから歩行者などが飛び出してきたり衝突する危険があります。他に止まっている車のドアが急に開いて衝突する危険などが考えられます。

●資料3（危険回避の仕方）



急に道路の中央方向へ進路を変えたり、安全を十分に確認しないまま車の横を走行したりするのは大変危険です。止まっている車の右側を通らなければならない場合は、車の手前でいったん止まり、前や後ろの安全を確かめてから、止まっている車の周囲によく注意しながら、ゆっくり走行するようにしましょう。

●資料4（車道の通行）

①車道の左端通行



②自転車道



③路側帯の通行



※路側帯とは、歩道の設けられていない道路で、歩行者の通行のため道路標示によって区画された部分

- ①自転車は車道を通行するのが原則で、歩道通行は例外です。車道を通行するときは、車道の左端を通行するようにしましょう。
- ②自転車道がある場合は、そこを通るようにしましょう。
- ③路側帯を通るときは、歩行者の迷惑にならないように注意して、場合によっては降りて通らしましょう。また、白の2本線の路側帯は通行できないことも覚えておきましょう。

●資料5（歩道の通行）

①自転車歩道通行可の標識



②自転車歩道通行可の歩道通行



歩道から車道への移動



③歩道での自転車同士の行き違い



- ①自転車は、自転車歩道通行可の標識のある歩道を通ることができますが、歩行者優先であることを忘れないでください。通行の仕方は、歩道の車道寄りの部分または指定された部分をいつでも止まれるスピードで走り、歩行者の通行を妨げそうな場合は一時停止し、歩行者が多いときは降りて押して歩きます。むやみにベルを鳴らしながら走るのはやめましょう。
- ②歩道から車道へ移る場合は、後ろからくる車などに十分注意して安全を確認してから行いましょう。また車道に出たときに右側通行とならないように注意しましょう。特に歩道と車道の頻繁な乗り入れや交差点付近で歩道から車道へ移ることが危険であることを理解しておきましょう。
- ③歩道で自転車同士が行き違うときは、相手の自転車を右側に見ながらスピードを落としてお互いにぶつからないように、歩行者に注意して通ります。その他警察官や交通巡視員の指示があった場合は、その指示に従いましょう。

●資料6（信号機のある交差点の通行）

①歩行者・自転車専用の信号機



青信号の点滅信号



②右折するとき



- ①信号機のある交差点を通行するときは、信号に従って通行しましょう。「歩行者・自転車専用」と表示されている信号機がある場合は、その信号機の信号に従ってください。特に青信号の点滅は横断を始めてはいけないという意味であることを理解しておきましょう。黄色の信号も同じ意味です。
- ②信号機のある交差点で右折するときは、青信号で交差点の向こう側までまっすぐに進み、その地点で止まり右に向きを変え、前方の信号が青になってから進みます。
- ③左折するときは、前後左右の安全を確かめ、できるだけ道路の左端に沿って十分スピードを落とし、横断中の歩行者に注意して曲がります。

●資料7（信号機のない交差点の通行）

①一時停止の標識・標示



②右折するとき



③左折するとき



- ①信号機のない交差点を通過するときは、一時停止の標識・標示がある所はもちろん、狭い道路から広い道路に出る場合や見通しの悪い曲がり角でも一時停止をして、安全を確認してから通行するようにしましょう。
- ②信号機のない交差点で右折するときは、停止線がある場合は停止線で一時停止し、前後左右の安全を確認、できるだけ道路の左端に寄って交差点の向こう側までまっすぐに進み、十分にスピードを落として曲がりましょう。
- ③左折するときは、停止線で一時停止し、前後左右の安全を確認して曲がります。

●資料8（道路の横断）

①横断歩道や自転車横断帯の横断



②近くに横断歩道や自転車横断帯がない所での横断



③Uターン



- ①横断歩道を横断するとき、歩行者がいる場合は、自転車から降りて押して歩くようにしましょう。近くに自転車横断帯があるときは、そこを通ります。
- ②近くに横断歩道や自転車横断帯がない場合は、右左の見通しのきく所を選んで、車のとぎれたときに直角に横断します。斜め横断は危険なのでやめましょう。
- ③Uターンするときも、いったん止まって、正しい横断の仕方です道路の反対側に渡り、自転車の向きを変えるようにしましょう。

●資料9（自転車の合図の仕方）

停止

右折

左折



道路は様々な人たちが利用します。お互いの安全のために、これからしようとする行動を他の交通利用者に知らせることがとても大切です。自転車に乗っているときの合図の仕方を再確認しましょう。

- ①「これから停止」は、右腕を斜め下に出します。
- ②「これから右折」は、手のひらを下にして右腕を横に水平に出します。
- ③「これから左折」は、右腕のひじを垂直に上に曲げます。